

あびこ型「地産地消」推進協議会

会報 第28号

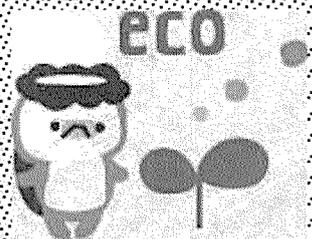
2012年 3月15日発行

*** 目次 ***

1. 学校給食支援部会活動の紹介
2. 各部会の活動紹介
 - (1) 新年ちびっ子餅つき大会2012
 - (2) 販路拡大・食育交流部会他のイベント開催報告
 - (3) 第36回消費生活展
3. 援農ボランティア拡大実行委員会の報告
4. 会員アンケート結果の報告
5. 総会開催のお知らせ
6. 編集後記



発行：あびこ型「地産地消」推進協議会 会長 米澤 外喜夫
住所：270-1155 我孫子市我孫子新田 22-4
Tel 04-7128-7770 Fax 04-7128-7771
E-mail abikochisanichisyokyo@sky.plala.or.jp
URL <http://www15.plala.or.jp/chisan/>



1. 学校給食支援部会活動の紹介

学校給食支援部会・広報部会

(1)現状

市内の小・中学校 19 校において「我孫子産野菜の日」などを設け 給食で我孫子産野菜を活用しています。平成 24 年 2 月現在、19 校中 11 校に農産物直売所よりあびこ型「地産地消」推進協議会の搬送ボランティアが、他の 8 校には農家が直接学校へ納入しています。また米については東葛ふたば農協を通じて平成 18 年度より全 19 校へ我孫子産米が納入されています。

現在この業務に従事しているのは、学校給食支援部会須藤一宏部会長以下小分け担当 1 名、搬送担当 4 名のボランティアの方々ですが、本年 4 月より新たなボランティアも加わりコーディネーターが生産者と学校側の調整を行う予定です。

(2) 昨年度までの経緯

平成 14 年度から我孫子市農業青壮年会議の農家を軸に、生産者の顔の見える我孫子市農産物の学校給食への供給がモデル 3 校に対し開始されました。あびこ型「地産地消」推進協議会は平成 17 年度から教育委員会、協力農家、学校栄養士との協議を行い、搬送ボランティアを行うようになりました。さらに平成 19 年度より農産物直売所を通じて納品するようになり、その後の拡大の状況は以下の通りです。

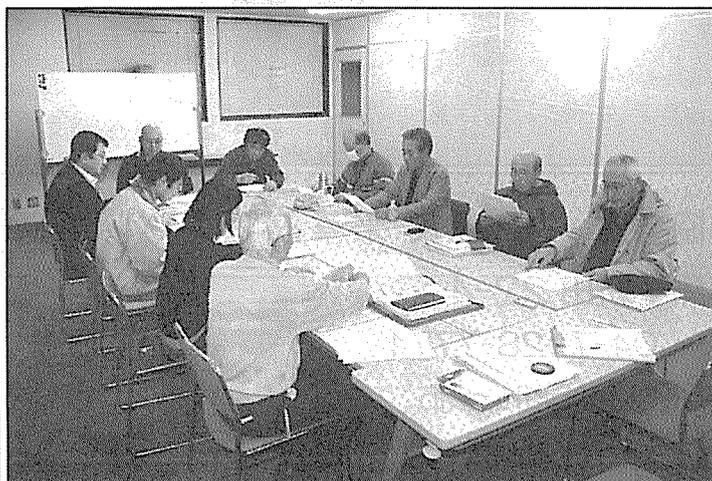
【搬送対象校】

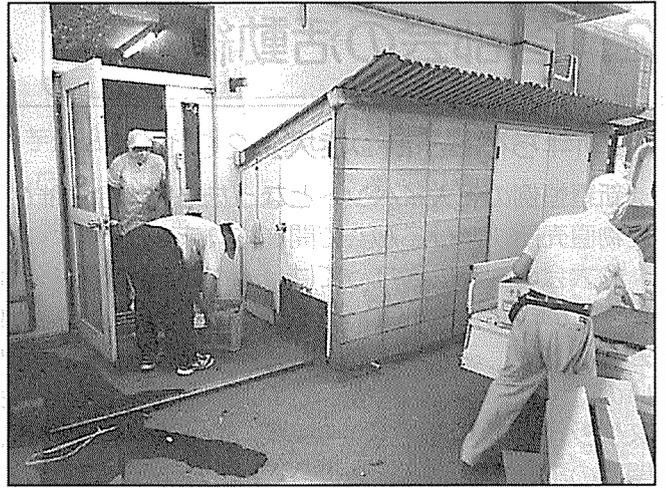
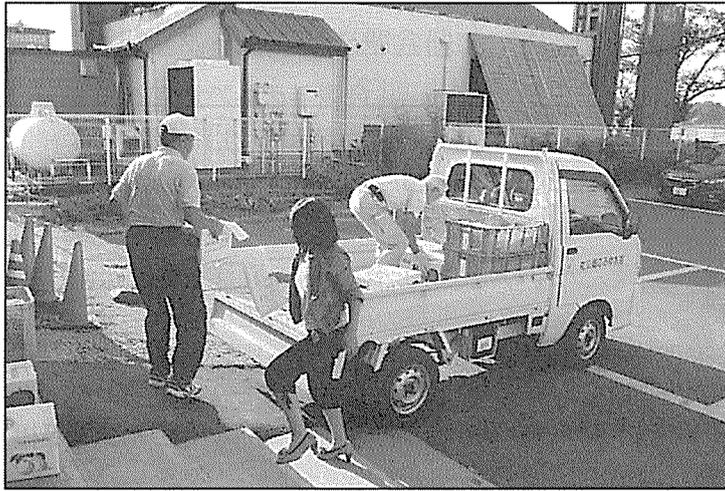
年 度	ボ ラ ン テ ィ ア 搬 送 対 象 校	
18	3 校	湖北小、新木小、湖北中、
19	5 校	上記 18 年度+新規：第 4 小、白山中
20	8 校	上記 19 年度+新規：布佐小、布佐南小、布佐中
21	10 校	上記 20 年度+新規：第 2 小、第 3 小
22	11 校	上記 21 年度+新規：第 1 小

【搬送回数等】

年 度	搬送回数	搬送延べ 学 校 数	搬送延べ 人 員	小分け延べ 人 員	搬送重量 合 計
21	54 回	119 校	87 名	72 名	6,317 kg
22	48 回	125 校	88 名	88 名	4,877 kg ※注 1

※注 1 22 年度は猛暑による根菜類の不足のため、前年の搬送重量を下回った。





(3) 新年度の抱負

平成 24 年度については我孫子市教育委員会と綿密な調整を行いつつ検討を進めているところですが、現在搬送量は本年度の 1.6~1.7 倍程度に拡大させる方向で進んでいます。こうした中で 1 月 30 日(月)、学校給食支援部会が開かれ以下のような提案について今後検討してゆくこととなりました。

- ①部会の活動内容を搬送に限らず、食育の面にも目を向ける。具体的にはこれまでも試みたように農家・直売所メンバーが「我孫子産野菜の日」に教室に出向き給食の時間に我孫子の現在の農業・野菜作りの説明をするのも一つの方策である。
- ②あびベジの組合員の中に「給食部会」を作ってもらい、連携を強化させ実施内容を充実させたい。
- ③当部会の実行委員構成の中に学校への野菜供給に積極的な農家に入ってもらうことも考えられる。
→その後給食部会は作らず、給食担当者 2 名を決め給食関係の窓口とすることとなりました。

(4) 参考

会報 25 号に掲載した星野市長へのインタビューの中で、「学校給食についてのお考えをお聞かせください。」という質問に対して、星野市長の学校給食に対する「熱い思い」を語られていらっしゃいましたので、その部分を抜粋して再度掲載します。

Q：学校給食についてのお考えをお聞かせください。

- ①我孫子の子供達に、我孫子で採れる野菜の本当の美味しさや旬を知ってもらいたいと思っています。
「我孫子産野菜の日」は、私が初めて市長に就任した時は、たった 3 校でしたが、この 3 月で 19 校全部に設けることができました。今後は品数を増やしていきたい。我孫子産の野菜で全部を賄えればいいですね。地元の旬の新鮮な野菜のおいしさを子供達に知ってほしいんです。
- ②「安全な野菜を求める」という意識を浸透させるには、農家だけでなく消費者側の方も変わらないとダメですね。同じような外見なら、値段の安い方の野菜を買いがちですが、例えば、地元の旬のトマトの味を子どもが知っていて、「お母さん、こっちの方がおいしいよ」って言ったら、お母さんはそっちを買うかもしれません。そのためは、学校給食で「我孫子の野菜は、旬のとき、こんなに美味しい」ということを、子供達に教えないといけないんです。子どもに知ってもらうのが、一番の近道だと私は思います。
- ③トマトにまつわるエピソードですが、ある日、学校からの帰り道で美味しそうなたマトが生っていたので、取って食べようとしたら、農家のおばちゃんに怒られたんです。「それはまだ早い。これを食べていけ」と。
取って食べようとしたことじゃなくて、トマトの旬が分からなかったことを怒られたのだと思います。
- ④旬をあまり意識しないで学校の給食の献立を作って、「この日に、この野菜を何キロほしい」と言われても、地元でその野菜が旬の時期でなければ、地元で賄うのは無理です。そうすると、今はどこからでも手に入るから、他所で調達した、旬でない野菜を食べることになり、子供たちは野菜を好きにならないでしょう。でも、それは美味しくないときに食べさせるからなんですよね。



新鮮でおいしい地元の野菜をもっと食べましょう！！

2. 各部会の活動紹介

(1) 新年ちびっ子餅つき大会2012

新春恒例の一大イベントとなった当協議会主催の『ちびっ子餅つき大会』は、1月15日(日)にあびこ農産物直売所「あびこん」で開催されました。

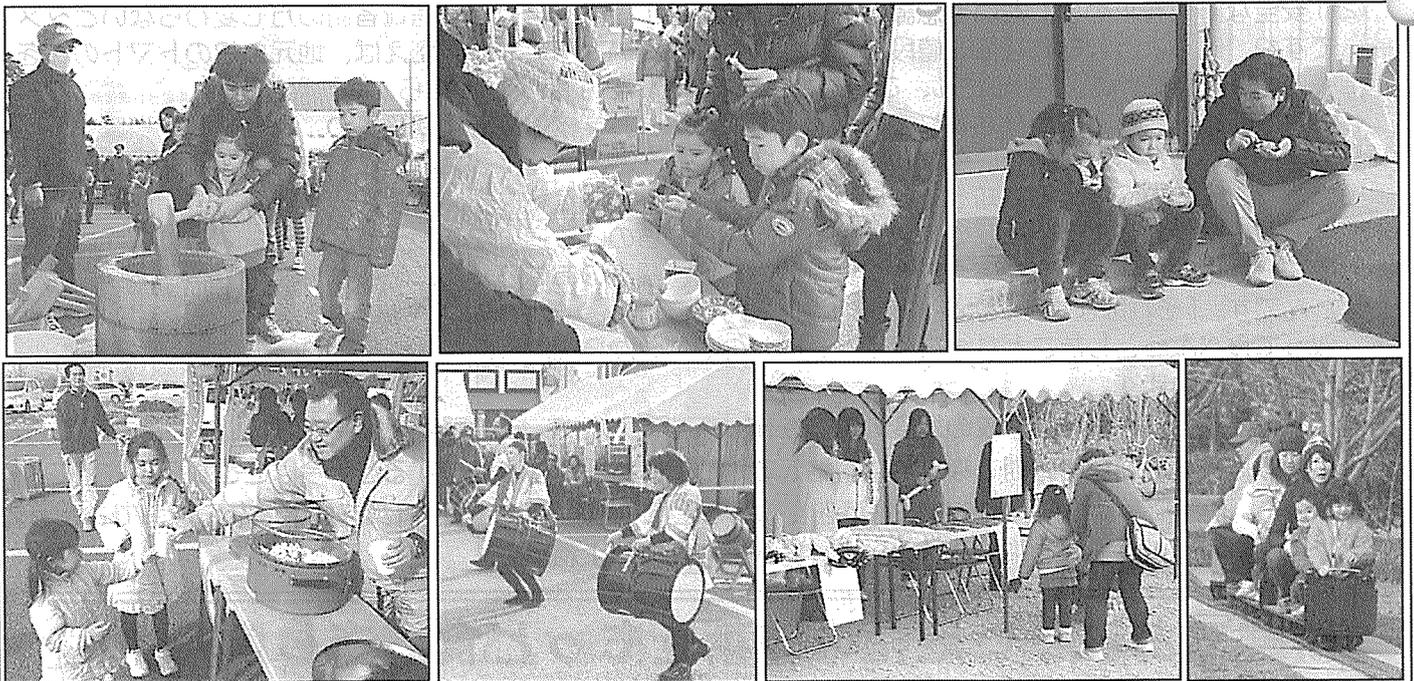
今大会の実施に当たっては、イベント内容の多様化に対応しつつ、大会の円滑な準備・運営を図るため、これまでの販路拡大・食育交流部会の担当による実施体制から、協議会の各部会の実行委員で構成する実行委員会を設置し、この実行委員会を中心とした協議会全体で取り組む実施体制に改めました。昨年に比べ準備が遅いのではないかと指摘も受けましたが、実行委員会方式に改めたことにより、実施内容、役割分担、タイムスケジュール等の打合せ・確認、チラシ、ポスター、広報あびこ等を通じた事前の周知活動や関係者、関係機関との調整もスムーズに行うことができ、良かったと思っています。

正直なところ、屋外でのイベントの成否は天候に大きく左右されるという側面もあり、年明け以降平年を下回る寒い日々が続いたことから人出がどうか心配しましたが、幸いにも、当日は曇り空ながらも風のない穏やかな日恵まれ、農産物直売所始まって以来ではないかと言われるほど多く(約2000人)の来場者がありました。

メインの餅つきは、午前10時から午後1時半まで30分毎に8回実施。今年は大人の餅つきを取り止め、子供たちの餅つきだけの名実共にちびっ子餅つき大会としましたが、いずれの回も順番を待つ子供や付き添いのお父さん、お母さんで長蛇の列ができ、つきあがった餅を試食するコーナーも最後まで大変な人気でした。「ヨイショ、ヨイショ」と威勢の良い掛け声を受けながら、自ら杵を持たせてもらって餅つきに参加した子供たちの楽しそうな、満足そうな(時に照れくさそうな)それぞれの表情とそれをカメラに収める嬉しそうな笑顔と笑い声のお父さん、お母さん。かつてない多数の来場者を得たことと相俟って、そうした実にほほえましい光景を次々と目にして、私たち運営スタッフも大満足でした。

食品・農産物販売コーナーでは、ポップコーン(あびこ農業祭り実行委員会)、鮎の塩焼き(手賀沼漁業協同組合)、トマトスープごはん(トマトスープごはん研究所)、うどん、焼き芋などの農産物加工品(加工部会)、野菜・果物(農産物直売所)の多くが大会終了前に完売になるなど大盛況でした。このほか、川村学園の学生さんによるバルーンアート、渡辺陽一郎さんの凧と竹とんぼ作りの実演指導やあゆみの郷公社によるミニSL無料乗車会など、子供たちに楽しんでもらうことを目的としたコーナーも大変好評で、終日行列が耐えることなく子供たちの笑顔がはじけていました。また、今年も市内の太鼓サークル『我孫子ふるさと会』と『坐孫子』に和太鼓の演奏で大会を盛り上げていただきました。

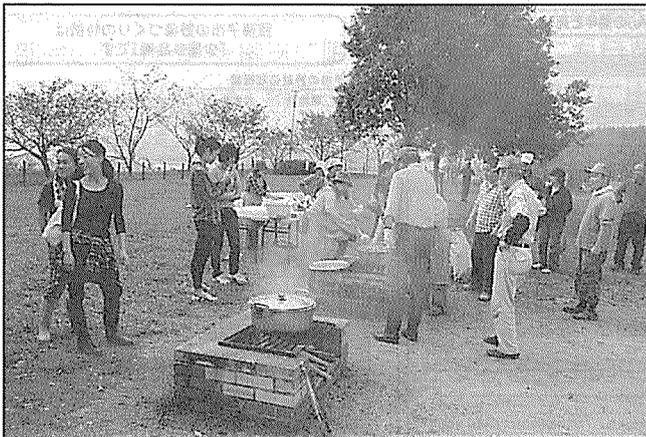
最後に、大会の開催にあたり、ご協力いただきました関係者、関係団体そして、ボランティアスタッフの皆さんに心から御礼申し上げます。



(2) 販路拡大・食育交流部会他のイベント開催報告

①「採って食べよう芋煮会」

11月5日(土)に岡発戸の古川農園で「採って食べよう芋煮会」が開催されました。好天に恵まれ多数の親子連れが参加し、青空のもとでの芋煮に舌鼓を打ちました。



②「農業まつり」

11月19日(土) 雨天の中、「農業まつり」があびこ農産物直売所「あびこん」にて開催されました。農家自慢の農作物の出来栄を競う「農産物共進会」が行われ、日下部 篤さん(柴崎)が優秀賞「千葉県知事賞」を受賞されました。

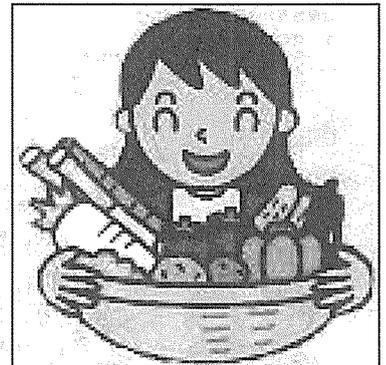
受賞された方は以下の方々です。

農産物共進会「優秀賞」および「特別賞」受賞者一覧 (敬称略)

優秀賞	品目	受賞者
千葉県知事賞	トマト	日下部篤
我孫子市長賞	ほうれん草	日暮正昭
東葛飾農業事務所所長賞	キャベツ	中野雪枝
我孫子市農業委員会会長賞	かぶ	岩立高司
東葛ふたば農業協同組合代表理事組合長賞	玄米	大井栄一
我孫子市植物防疫協会会長賞	きゅうり	古川鉄夫
農事組合法人あびベン代表理事賞	ゆべし	中野富士子
あびこ型「地産地消」推進協議会会長賞	トマト	松下智恵子

特別賞	品目	受賞者
我孫子市農業まつり賞	トマト	日下部亜矢子
おもしろ野菜賞	カリフラワー	増田京子

※2011年12月1日付
「広報あびこ」より抜粋



③その他のイベント

11月26日(土)、27日(日)「新そば祭り」、12月20日(土)「漬物教室」とともに「あびこん」にて開催され、好評のうちに終了しました。

3. 援農ボランティア拡大実行委員会の報告

援農ボランティア拡大実行委員会議報告

援農ボランティア部会長 宮本 豊

平成24年1月13日、近隣センター「こもれび」において拡大実行委員会が開催されました。今までの拡大実行委員会議は受入農家(農家)全員に参加をお願いしていましたが、今回の拡大実行会議で農家の代表が決まりました。鈴木順一さんが代表で中野栄さん、古川鉄夫さんの3人に農家の実行委員に就任してもらいました。この事は1月の運営会議でも承認されました。従って、今後の「拡大実行委員会議」(1月と7月開催)はボランティアの5人と農家の代表の3人で行う事になります。

今回の会議では特に、ボランティア活動の割振りの問題を話し合いました。割振りの実情を説明するために毎月割振りの実務をお願いしている山田さんにも参加してもらいました。毎月の援農活動で農家とボランティアの「ミスマッチ」①午前・午後の逆②希望以外の日の割振り③増員の割振り。事前に、この3点についてアンケート調査をしていました。農家によってはこれら3点を無視するわけにはいかず、その都度電話で確認しなければなりません。農家とボランティア双方の事情をうまくマッチさせなければなりません。今までは、ボランティアの参加希望を優先して割振りをしていましたが、これからはボランティアの方に割振りできない事がある事をご理解いただきたいと思ひます。(今までもごく少数、できない場合がありました)

この他、携帯電話の使用のお願いしました。併せてそのメールも使えればお互いに便利になる事の説明をしました。

4. 会員アンケート結果の報告

「イベント活動などに参加してもよい」 --- 75%の会員が回答

総務部会

協議会では①会員の関心分野の把握②会員の協議会活動への参加意向などを伺うことを目的に1月下旬、40人の会員にアンケート調査を実施しました。設問は4問。24人から回答を得ました。設問と結果は以下のとおりです。Q1.「協議会に実施事業であなたが重要と思う分野はなにか」を聞いたところ(複数回答可)、一番多かったのが「援農ボランティア事業」21人、次が「販路拡大・食育交流事業」19人、三番目が「学校給食支援事業」13名でした。Q2.「協議会活動への参加意向」については、「イベントなどで年1回2回程度なら参加してもよい」18名(75%)、「実行委員としては参加できない」6名(25%)でした。Q3.「協議会で行うイベントで関心のある分野」では(複数回答)、①夏祭り朝とり野菜直売11人、②料理教室10人③農業まわり9人でした。Q4.協議会行事など情報発信を目的にしたメルマガの要否については、必用13人、不用6名、無回答5名という結果でした。

アンケート実施概要

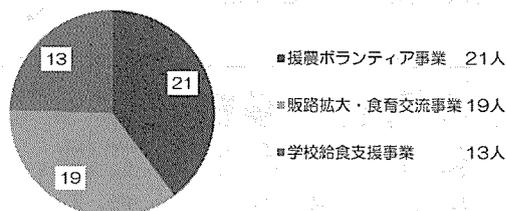
目的：会員の関心分野の把握、会員の参加意向など。

実施日：1月中旬

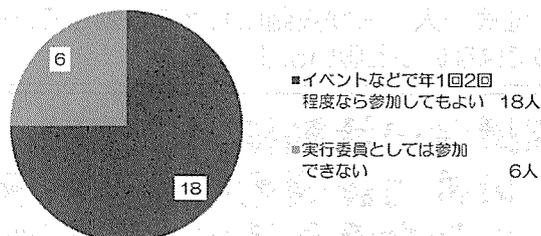
対象：直近3カ年の入会者40名

回収数：24通(回収率58%)

Q1.「協議会に実施事業であなたが重要と思う分野はなにか」(複数回答)



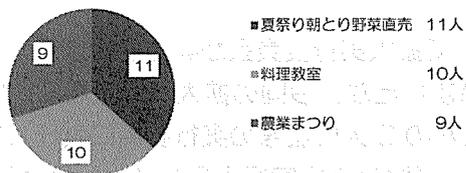
Q2.「協議会活動への参加意向」



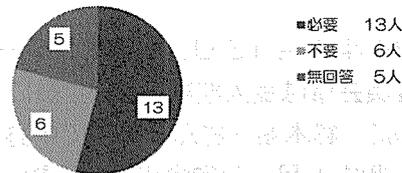
(次ページへ)

(前ページより)

Q3.「協議会で行うイベントで関心のある分野」(複数回答)



Q4.協議会行事など情報発信を目的にしたメルマガの要否



5. 総会開催のお知らせ

第9回定期総会を下記の日程で開催致します。会員の皆様のご出席をお願い致します。尚、詳細につきましては、別途事務局よりご案内を致します。

日時：平成24年5月19日(土) 受付開始：13:00～ 開演：13:30～

場所：我孫子市民プラザ(あびこショッピングセンター3階)

内容：①第一部 講演会とパネルディスカッション(13時30分～市民および会員を対象)

テーマ「我孫子の学校給食における”地産地消”と明日の”学校給食”を考える」(仮題)

②第二部 定期総会(15時～)

③第三部 会員懇親会(総会終了後)

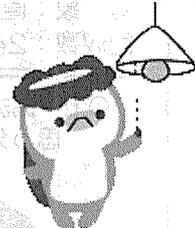
※上記の詳細については変更の可能性があります。正式には事務局より別途案内があります。

6. 編集後記

広報部会 平野 善史

東日本大震災から早いもので1年が経過しました。未だに約3,200名近くの方が行方不明となっています。また、復興・復旧も遅々として進まず、被災者の大多数の方々は、この冬の雪と寒さの中で、将来の展望も見出せずに、不安な毎日を送っていることと思います。原発事故への対策も不十分で、このままいくと、日本にある全原発が停止して新たなエネルギー問題が発生するのは必至です。現在、電力会社は原発停止による電力供給のカバーとして、火力発電の比率を高めています。当然のことながらLNGや重油類が燃料となりますが、石油精製メーカーの処理設備停止に伴う供給能力減と、イラン情勢の緊迫から今後の石油輸入減が予想され、電力の安定供給には不安が残ります。一部の知識人や国民が全原発停止の運動をしていますが、21世紀の今日、私達が享受している利便性は、原子力発電や化石燃料を使用した火力発電によるものです。太陽光発電や風力発電、その他の代替エネルギーも普及して来てはいますが、原子力発電や火力発電の代替エネルギーとしては、まだまだ構成比率が低いのも事実です。一度享受した利便性を果たして捨て切れるのでしょうか？ 今、私達がやらなければいけないことは、感情的にならずに将来の「あるべきエネルギー供給の姿」を冷静に考えることではないかと思えます。

原発を全て停止するのであれば代替エネルギーをどうするか、消費者はどういう対応をすべきか、原発を再稼働するのであれば、今まで以上に厳しい安全対策を義務付ける必要があると思います。国や地方自治体などの行政側が、確実に政策を実施し、民間企業、国民一人一人が真剣に考えて行動して行くことが、将来の安全・安心に繋がっていくのではないかと思います。



協議会の活動拡大に伴い、各部会の活動も多様となっており、多くの検討課題を抱える状況にあります。つきましては、会員の方々の部会委員活動への積極的なご参加をお願いいたします。